第 19 回日本 LCA 学会講演会

講演・討論会「温室効果ガスの削減貢献量評価」

主　催：日本 LCA 学会（企画委員会・環境負荷削減貢献量評価手法研究会）

共　催：LCA 日本フォーラム
日　時：2014 年 12 月 18 日（木）　13：15～17：00
場　所：全日通霞ヶ関ビル 8 階大会議室 B
（東京都千代田区霞ヶ関 3-3-3　TEL: 03-3581-2261）
定　員：120 名
参加費：　日本 LCA 学会賛助会員：無料(資料代込み)
日本 LCA 学会正会員：無料（資料代込み）
日本 LCA 学会学生会員：無料（資料代込み）
LCA 日本フォーラム会員：2,000 円（資料代込み）
非会員 一般：6,000 円（資料代として）
非会員 学生：2,000 円（資料代として）
参加申込：学会 HP の登録受付フォームから参加申込をお願いします。

開催趣旨：

最近、日本化学工業協会の活動を始めとして、「製品の環境負荷排出削減貢献量」を計算する試みが各所でなされるようになってきた。主として、「現在存在する製品がなかりせば」と仮定して、その製品が存在することでなし得た CO2 などの環境負荷排出の削減量を計算することが行われている。したがって、過去の環境負荷削減量を定量化する試みと考えられるが、その製品がない状態をどのように定義するかということなど、手法として不明確な点が多い。また、将来の環境負荷削減貢献量を計算することも行われているが、この場合には将来のシナリオ（ベースライン）をどのように設定するかという問題がある。

そこで、日本 LCA 学会では平成 26 年 1 月に環境負荷削減貢献量算定手法研究会を設立し、産業界における製品の環境負荷排出削減貢献量の計算の事例を収集し、その課題を抽出することで環境負荷削減貢献に関する考え方を整理すると共に、評価手法としてのあるべき姿を考え、CO2 排出削減貢献量の計算方法のガイダンスをとりまとめた。このガイダンスの内容を紹介する。

さらに、現在産業界で行われている温室効果ガス削減貢献量の算定の最前線を紹介し、今後のあり方を探る。

プログラム
13:15～13:25　開催挨拶
（日本 LCA 学会　会長）
独立行政法人物質・材料研究機構　原田　幸明
13:25～13:30　開催趣旨説明
（環境負荷削減貢献量評価手法研究会　主査）
工学院大学工学部　稲葉　敦

<u>Session1　現状把握</u>
13:30～14:05　「我が国産業界による削減貢献量への対応」
みずほ情報総研株式会社　内田　裕之

【概要】我が国では、GHG の削減貢献量について、電機・電子、IT、化学業界など、多くの産業界が先進的に活動を行っており、多くの算定事例が蓄積されてきた。産業界の活動は、国際的な標準文書作成へと広がり、IEC、ITU-T、国際化学工業協会／WBCSD chemicals など、我が国産業界が主導する標準文書、ガイドライン作りも進んでいる。本講演では、我が国の産業界・企業が行っている活動、算定内容を中心に最近の動向を紹介する。

14:05～14:55　「地方自治体等での取り組み」

・「滋賀県　製品等を通じた貢献量評価手法について」

パシフィックコンサルタンツ株式会社　小倉　真紀 / 井伊　亮太

【概要】　滋賀県では、温室効果ガス排出量削減の長期的な目標の実現のため、条例を制定し、一定規模以上の事業者に低炭素化に取り組むための事業者行動計 画等の 作成を義務づけている。行動計画等では、省エネ製品等の生産・普及を通じた低 炭素社会づくりへの貢献についても記載項目の一つに掲げている。貢献量評価 の基本的な考え方や算定方法等がとりまとめられた「滋賀県製品等を通じた貢献 量評価手法　算定の手引き」の内容を紹介する。

・「川崎メカニズム認証制度について」

一般社団法人産業環境管理協会　　鶴田祥一郎

【概要】川崎市には、優れた環境技術を保有する事業者が多く存在する。その特徴・強みである優れた環境技術を活かした地球規模での温室効果ガスの削減を推進することを目的に、川崎メカニズムを構築し、2013 年から認証制度の運用を開始した。この制度は、市内企業の環境技術が市域外で温室効果ガスの削減に貢献している量を認証する。それにより、企業の環境技術が、市場で適切に評価されることが期待される。本発表ではこの構築した川崎メカニズム認証制度について紹介する。

14:55～15:20　ISO 14064-2 におけるベースラインの考え方

（エネルギー経済研究所）工藤拓毅

【概要】ISO 14064 の Part2 では、GHG プロジェクトにおける削減量や固定量の算定、モニ タリング、そして報告に関する要件について規定している。特にベース ライン に関しては、追加性をはじめとして各種 GHG プログラムで様々な要件が設定され るが、ISO ガイドラインの内容は、様々な GHG プロジェク トのデザインを包含する一般的事項を規定した手引きである点が特徴となっている。

休憩　(15:20～15:40)

Session2　日本 LCA 学会のガイダンス

15:40～16:15　「温室効果ガス削減貢献量算定ガイダンスの紹介と論点整理」

○東京大学大学院工学系研究科　　醍醐　市朗

独立行政法人産業技術総合研究所　　本下　晶晴

【概要】優れた環境技術を有した素材、部品、製品の、そのライフサイクル

における温室効果ガスの排出削減に対する貢献量を算定する取り組みが、地方自治体では川崎市や滋賀県、工業会では国際化学工業協会協議会及び WBCSD chemical、電子情報技術産業協会において始められている。その潮流の中で、日本 LCA 学会として研究会を立ち上げ、ガイダンスの策定を検討してきた。本講演では、ガイダンスにおける論点を整理しながら、概要を紹介する。

Session3　総合討論

16:15～17:00　総合討論「温室効果ガスの削減貢献量評価」

司会：工学院大学　工学部　稲葉　敦

17:00　閉会挨拶

（日本 LCA 学会企画委員会副委員長）

独立行政法人産業技術総合研究所　田原　聖隆